令和５年１月１７日

令和４年度病害虫発生予報第１０号

長崎県病害虫防除所長

向こう１か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

| 農作物名 | 病害虫名 | 発生程度 | |
|---|---|---|---|
| | | 現況 | 予想 |
| きゅうり | べと病 | 並 | 並 |
| | うどんこ病 | 並 | 並 |
| | 褐斑病 | 少 | 少 |
| | 灰色かび病 | 並 | 並 |
| | ミナミキイロアザミウマ | 並 | 並 |
| | コナジラミ類 | 並 | 並 |
| トマト | 黄化葉巻病 | 並 | 並 |
| | 灰色かび病 | やや少 | やや少 |
| | コナジラミ類 | 並 | 並 |
| たまねぎ | 白色疫病 | 並 | 並 |
| | ネギアザミウマ | 並 | 並 |
| いちご | うどんこ病 | 並 | 並 |
| | 灰色かび病 | やや少 | やや少 |
| | アブラムシ類 | 並 | 並 |
| | ハダニ類 | やや多 | やや多 |
| | アザミウマ類 | 並 | 並 |

【発生予報】　本文の（　　）内は平年値

## きゅうり

### １．べと病

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

１月前期の巡回調査（９筆）の結果、発病葉率は０.９％（１.５％）、発生圃場率は２２.２％（１９.９％）であった。

### ２．うどんこ病

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

１月前期の巡回調査（９筆）の結果、発病葉率は４.３％（３.７％）、発生圃場率は５５.６％（３８.１％）であった。

### ３．褐斑病

（１）予報内容：発生程度　少

（２）予報の根拠

１月前期の巡回調査（９筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率０.０％、発生圃場率３.１％）。

４．灰色かび病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

５．ミナミキイロアザミウマ
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、寄生葉率は０.２％（０.９％）、発生圃場率は２２.２％（２０.８％）であった。

６．コナジラミ類
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、寄生葉率は０.３％（０.５％）、発生圃場率は２２.２％（１５.６％）であった。
（３）防除上注意すべき事項
ア　密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。
イ　タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（ＣＣＹＶ：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。
ウ　退緑黄化病の発生が多い状態（発病株率２４.２％、発生圃場率８８.９％）が続いており、次作に持ち込まないよう防除対策を徹底する。
エ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和４年長崎県病害虫防除基準Ｐ１５８～１６１の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤を連用しない。

## トマト

１．黄化葉巻病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、発病株率は０.０％（０.３％）、発生圃場率は１１.１％（１８.０％）であった。
（３）防除上注意すべき事項
　　タバココナジラミの防除を徹底するとともに、ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。

２．灰色かび病
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、果実での発生は認めなかった（過去１０か年平均　発病果率０.０％、発生圃場率０.８％）。葉での発生も認めなかった（過去９か年平均　発病葉率０.４％、発生圃場率１２.０％）。

３．コナジラミ類
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　　１月前期の巡回調査（９筆）の結果、寄生葉率は１.９％（１.４％）、発生圃場率は４４.４％（３３.７％）であった。
（３）防除上注意すべき事項
ア　コナジラミ類は多発生すると防除が困難になるので、発生状況の把握に努め、発生初期の防除を徹底する。

イ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和４年長崎県病害虫防除基準Ｐ１８６～１８９の「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤を連用しない。
ウ　施設内の雑草は本虫の発生源となるので除去する。

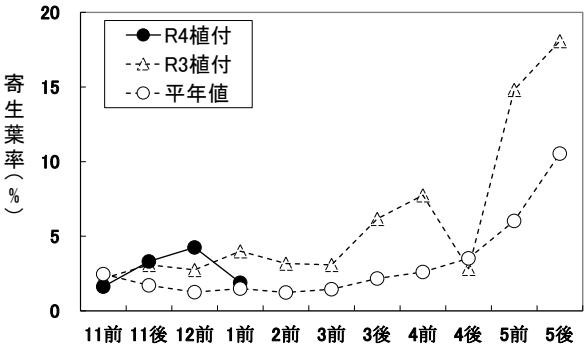


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率の推移

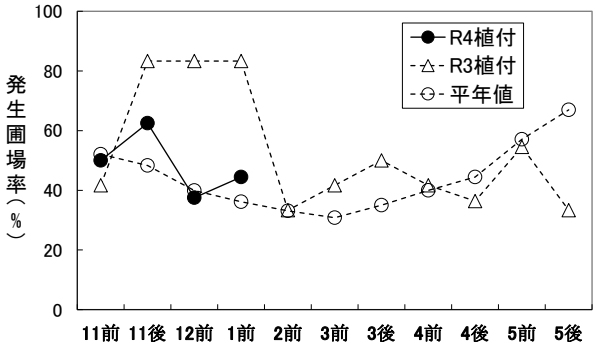


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

## たまねぎ

### １．白色疫病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　１月前期の巡回調査（１６筆）の結果、発生を認めなかった（過去１０か年平均　発病株率０.０％、発生圃場率０.７％）。

### ２．ネギアザミウマ
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　１月前期の巡回調査（１６筆）の結果、寄生株率は７.６％（８.０％）、発生圃場率は５０.０％（４４.０％）であった。

## いちご

### １．うどんこ病
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、葉での発生は認めなかった（発病株率０.０％、発生圃場率１.９％）。果実での発病果率は０.０％（０.０％）、発生圃場率は３.８％（１.４％）であった。

### ２．灰色かび病
（１）予報内容：発生程度　やや少
（２）予報の根拠
　１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、発病果率は０.０％（０.１％）、発生圃場率は７.７％（１４.２％）であった。

### ３．アブラムシ類
（１）予報内容：発生程度　並
（２）予報の根拠
　１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生株率は１.０％（１.５％）、発生圃場率は１５.４％（１８.２％）であった。

４．ハダニ類

（１）予報内容：発生程度　やや多

（２）予報の根拠

１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生株率は１１.１％（７.１％）、発生圃場率は４６.２％（４８.７％）であった。地域によっては多発圃場が見られた。

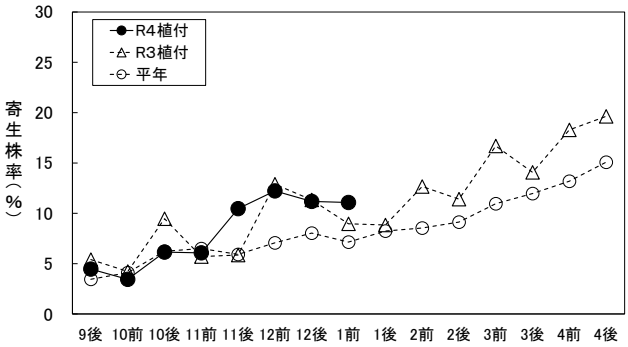



図 いちご ハダニ類 寄生株率

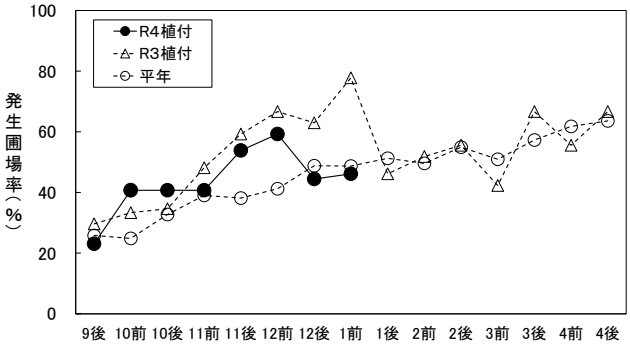



図 いちご ハダニ類 発生圃場率

（３）防除上注意すべき事項

ア　早期発見、早期防除に努める。また、防除効果を高めるため薬剤散布前に古葉を除去し、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ　薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、ミツバチや天敵のカブリダニ類等への影響を考慮する。

ウ　薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和４年長崎県病害虫防除基準Ｐ２１６～２１９「作用機構による分類（ＩＲＡＣ）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ　除去した茎葉は圃場内に放置せず、すみやかに処理し、圃場内の環境整備に努める。

５．アザミウマ類

（１）予報内容：発生程度　並

（２）予報の根拠

１月前期の巡回調査（２６筆）の結果、寄生花率は０.７％（過去７か年平均０.４％）、発生圃場率は１５.４％（同　１４.４％）であった。

【参考】

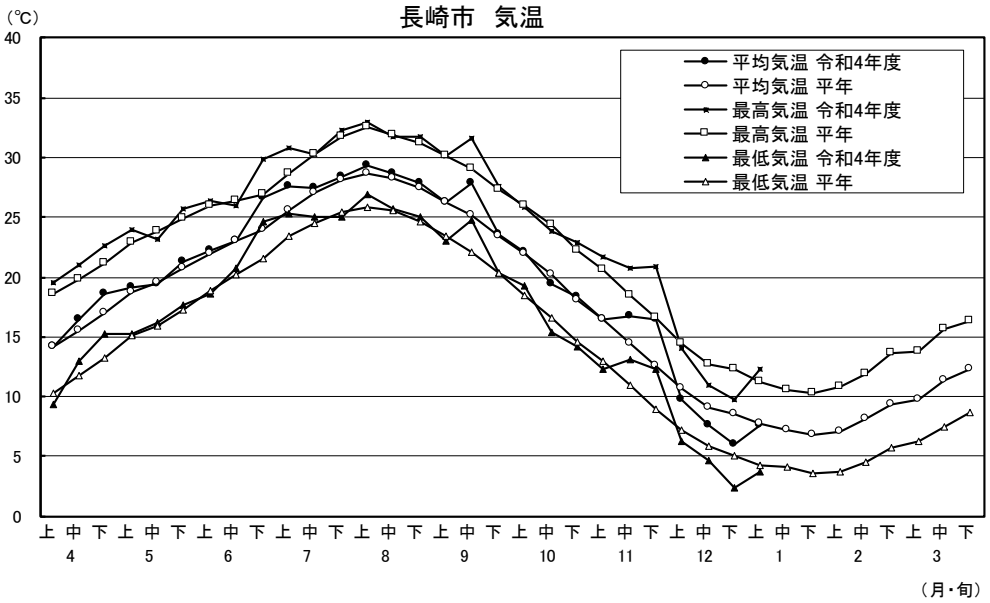
気象　（令和５年１月１２日発表　１か月予報　福岡管区気象台）

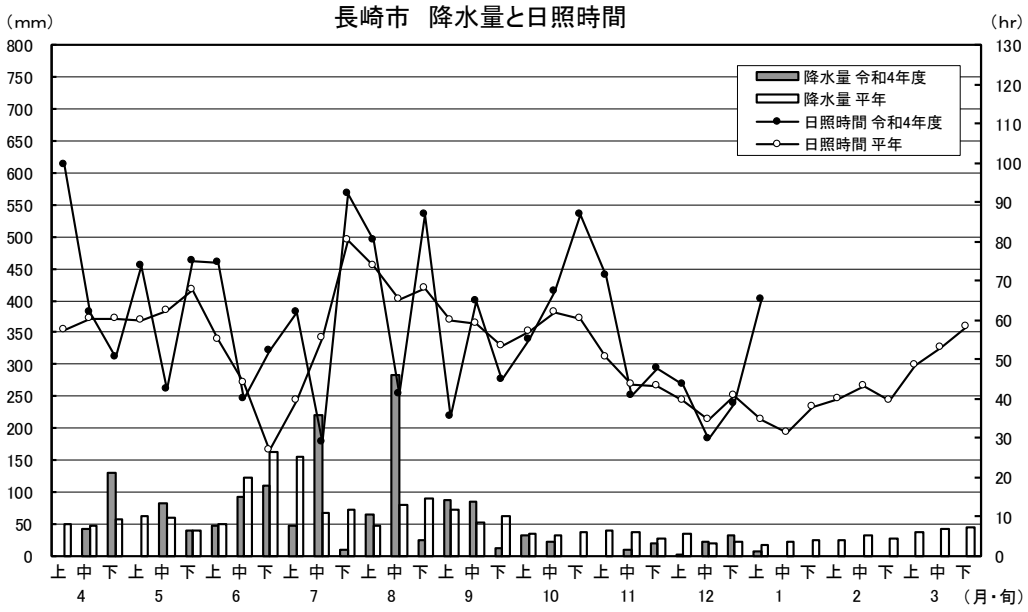
要素別確率

| 要素 | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|---|---|---|---|
| 気温 | 20 | 30 | 50 |
| 降水量 | 30 | 40 | 30 |
| 日照時間 | 30 | 40 | 30 |

※予報対象地域：九州北部地域

令和４年度の気象経過（長崎地方気象台）




---

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）ホームページ」アドレス：http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター　環境研究部門　病害虫発生予察室

（長崎県病害虫防除所）　ＴＥＬ：0957-26-0027